

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
A205	中国語 / 中国語 I	2年	講義	2	本年度不開講
授業概要 初心者を対象に、中国語の発音、日常的に使う簡単な挨拶、初歩的な基礎文法をマスターする。本授業では、中国語式ローマ字の発音表記(ピンイン)を覚え、漢字を正確に発音する力を養成する。まずは子音と母音の発音、声調を身に付けてもらう。次は、語彙や文型を増やしながらか、身近な話題について表現の練習を行う。基礎的な文法項目をも習得してもらう。授業では、学生一人ひとりの発音をチェックし、正しく発音できるよう徹底的に指導します。					
到達目標(学習の成果) 1. 中国語の発音の母音 36 個と子音 21 個及び声調の変化を覚えること。 2. 常に簡単な日常挨拶が出来るようにすること。 3. 約 60 文の挨拶や簡単会話ができるようにすること。 4. 本学期に学んだ文法(23 ポイント)に基づいて簡単な文を組める、話せること。					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	中国語の特徴と学び方法	中国語と日本語の異同や賢い勉強法、発声法・中国語のローマ字表記			
2	母音と声調	基礎である6つの単母音の発音や母音の声調・音節			
3	二重母音と子音(唇音)	4つの二重母音・4つの唇音の発音、子音+母音の音節練習			
4	二重母音と子音(舌尖音)	5つの二重母音・4つの舌尖音の発音、それらの組合せ練習			
5	三重母音と子音(舌根音)	4つの三重母音・3つの舌根音の発音や組合せ練習			
6	鼻母音と子音(舌面音)	5つの鼻母音・3つの舌面音の発音や組合せ練習			
7	複合鼻母音	11個の鼻母音の発音練習			
8	子音の捲舌音と舌歯音	捲舌音の発音の強化練習			
9	発音の総合練習	音節表に基づいて全ての音節を発音する練習、発音表記の注意点			
10	ピンインのつづり方	注意すべき発音、隔音符号、声調の組合せ練習			
11	声調の変化	第3声の変化、“一”と“不”の声調変化、軽声			
12	発音編総合復習	発音の復習、小テスト1			
13	挨拶用語	易しい挨拶、人称代名詞			
14	形容詞述語文	簡単な疑問文(省略疑問文・反復疑問文)			
15	「是」構文の学習	判断文の勉強、指示代名詞			
16	「是」構文の否定	判断文の否定、疑問詞疑問文(1)			
17	助詞「的」の学習	「的」の省略、「是…的」構文			

18	動詞述語文	動詞述語文、疑問詞疑問文(2);疑問文に関する資料の配布
19	動詞・目的語構造	動詞・目的語構造を覚える、「和」について
20	動詞述語文の練習	日常会話によく使う動詞述語文の練習
21	動詞「有」の学習	所有を表す動詞「有」、名量詞(1)
22	前置詞「在」の学習	親族の呼び方、前置詞「在」の使い方
23	疑問文の総合練習	疑問文について、疑問詞「多少」、「几」について
24	否定を表す方法	「不」と「没」の使い分けについて、小テスト2
25	名詞述語文	限定された述語、数詞、数の数え方
26	名詞述語文の否定	時刻・時間の表し方
27	時間の表し方	年月日、曜日の言い方
28	時に関する練習	時間・時刻・年月日・曜日に関する会話
29	文法及び基本文型の総合練習	筆記練習を通して読む・書く実力を確かめる;復習資料の配布
30	発音や易しい会話の総合復習	学生と一対一の話を通して会話の能力を高める
<p>準備学修(授業外の自己学修)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の前に予習すること。 2. 教科書に付くCDを繰り返し聞きながら発音を覚える。 3. 分からない単語や文を留意し、授業中で質問して理解してもらう。 4. 春学期に2回小テストを行うので毎回授業後の復習は欠かせないこと。 5. 授業時間外の質問は木曜4限に行う。事前に担当教員へ連絡して下さい。 		
<p>成績評価の方法・基準(%表記)</p> <p>授業への出席は単位修得の最低条件である。出席は(期末試験を含めて)20回以上出席しないと、評価の対象としない。出席・学習態度 30%、平常成績(小テスト) 10%、読む能力 10%と学期末試験(口頭試験) 50%の結果を総合的に評価する。</p>		
<p>教科書</p> <p>《新・中国語はじめました》瀬戸口 律子 著 駿河台出版社 2013.2.1 4刷発行 ISBN978-4-411-03039-9 C1087 税込価格 2415 円(本体価格 2300 円+税)</p> <p>参考書等</p> <p>初級中国語《教科書たす参考書》白帝社 小川郁夫 著 図書館にある教科書も参考しなさい</p>		
<p>履修上の注意・学修支援</p> <p>欠席しないこと。遅刻しないこと、遅刻は授業開始から5分まで、10分以降の入室は基本的に「出席」と認めない。授業中常に簡単な会話を行いますので元気な声出して練習するよう努力する。やむを得ず出席できない場合必ず教務課や担当教員に連絡してください。</p>		